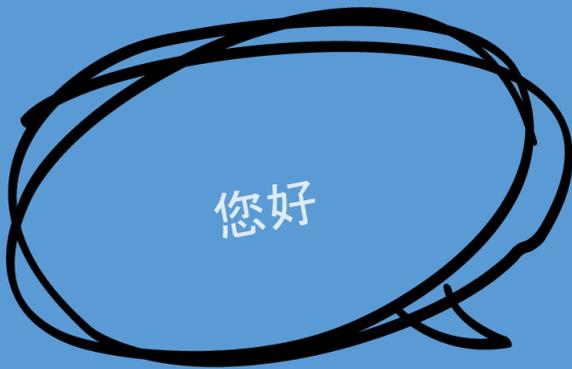
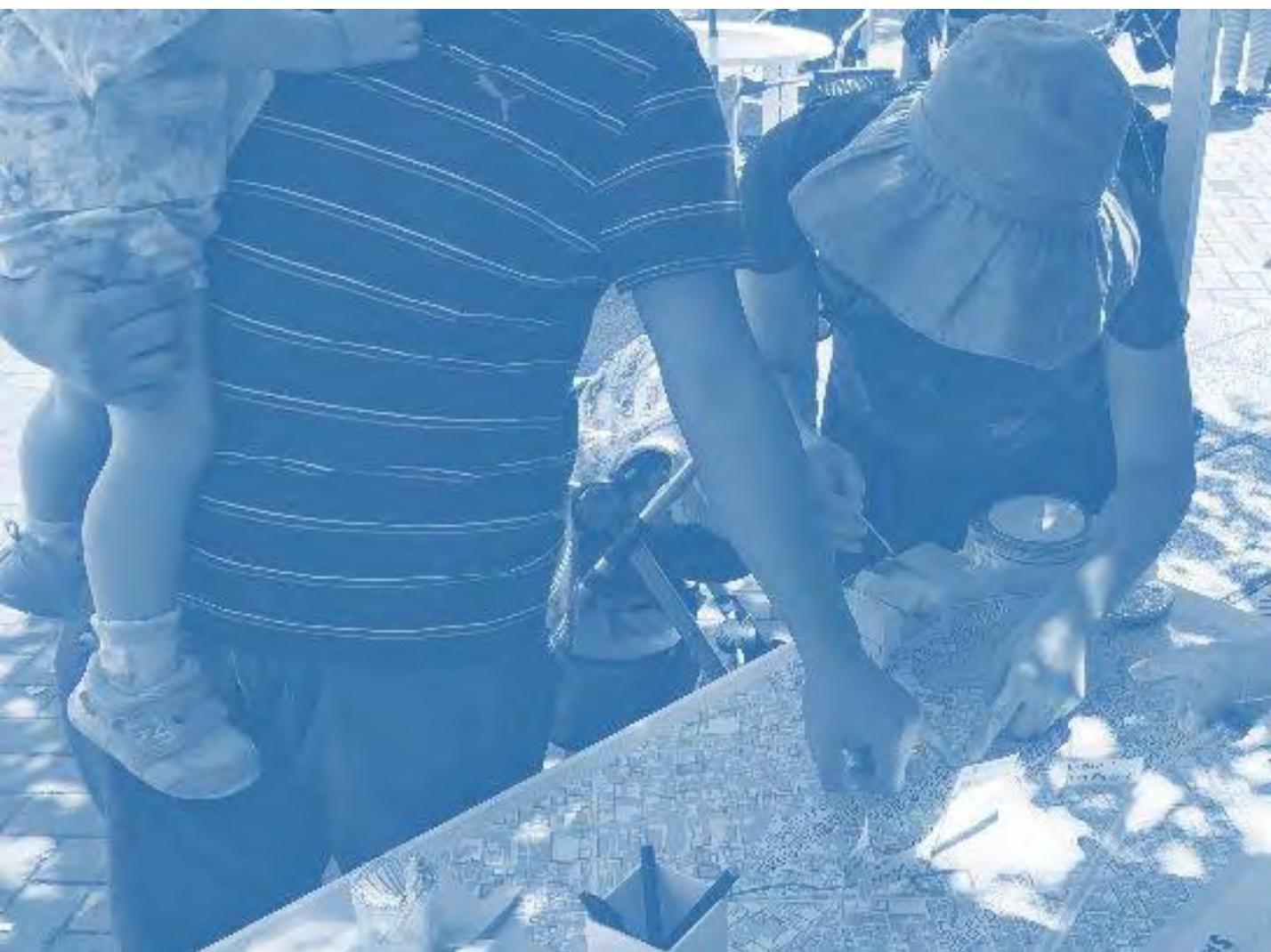




宮の沢まちづくり計画







contents



宮の沢って、こんなまち	4-5
まだまだあります、宮の沢	6-7
こんな時代がやってくる!?	8-9
現在 × 社会の動き → まちづくりのヒント	10-11
OurFutuers → Direction → Action!!	12-13
具体的なActionの内容	
1.拠点機能を高める	14-15
2.おもてなし交流でつながりを築く	16-17
3.暮らし・コミュニティを育む	18-19
まちづくりの進め方と仕組み	20
宮の沢まちづくり計画 ができるまで	21

いま
現在

宮の沢って、こんなまち

はじめまして！

宮の沢まちづくり協議会です

宮の沢まちづくり協議会は、「西町連合町内会」や「西のコンサ通り商店会」、そして地元の企業などで構成される団体が、地下鉄宮の沢駅周辺のさらなる賑わいの創出に向けて取り組むことを目的に平成29年2月に設立した団体です。

宮の沢には、明治5年に三木勉によって創設された時習館（手稲東小学校の前身）があり、明治9年には上手稲神社が創建され、さらには、手稲の開拓の功績を伝える手稲記念館が昭和44年に開館した歴史ある地域です。

このような歴史ある宮の沢について、協議会では、「こんなまちにしたい」「もっとたくさんの人に宮の沢を楽しんでもらいたい」「住み続けたい」という理想の将来像や力を合わせて取り組んでいくための目標を地域のみなさんと共有しつつ、地域一丸となって宮の沢のさらなる活性化に取り組んでいきたいという思いから、宮の沢まちづくり計画を策定しました。

宮の沢まちづくり協議会一同

宮の沢のビッグ4

宮の沢のビッグ4といえば・・・」1で熱い戦いを繰り広げる「北海道コンサドーレ札幌」、地下鉄駅直結の施設「ちえりあ」、国内外から観光客が訪れる「白い恋人パーク」、最新の医療が充実した「北海道大野記念病院」です。このビッグ4が、宮の沢の賑わいづくりの原動力になっています。

ビッグ
1



ビッグ
2



ビッグ
3



ビッグ
4





北海道コンサドーレ札幌

練習場がすぐそこ！身近なプロスポーツ体感



宮の沢白い恋人サッカー場では、選手の日々の練習を見ることができ、プロスポーツを身近に感じられます。コンサドーレが活躍し続けることで、宮の沢が盛り上がっていきます！



札幌市生涯学習総合センター-ちえりあ 地域での学び、まちづくりを支援



地下鉄宮の沢駅直結のちえりあは、地元住民を含む市民のさまざまな生涯学習活動を支援し、一人ひとりがいきいきと学び、交流することができる場です。



白い恋人パーク

国内外からの観光客も急増中！



誰もが知る「白い恋人」を冠する白い恋人パークは、石屋製菓株式会社が運営するテーマパークです。海外でも人気が高く、宮の沢観光でははずせません！



北海道大野記念病院

最先端の医療設備、充実の医療体制



平成28年10月15日、西区宮の沢に開院した北海道大野記念病院。最新の医療を求めてたくさんの人々がやってきます！

宮の沢のまちづくり、賑わいづくりの



いま
現在

まだまだあります、宮の沢

ビッグ4に負けず劣らず 宮の沢ってけっこうスゴイ！

宮の沢でのまちづくり、賑わいづくりには、宮の沢を代表するビッグ4があります。

しかし、このまちの魅力はそれだけではありません。

交通アクセス抜群、四季折々の豊かなみどり、息づく歴史文化、心おどる出会い、隠れ家的なお店、こんなところに外国人!!...など、宮の沢って魅力にあふれていると思いませんか？

地下鉄宮の沢駅は、ちえりあ、
白い恋人パークへのアクセスもばつぐん！

地下鉄東西線の発着駅、宮の沢。
いろいろな施設や場所へのアクセスは良好です。

宮の沢を拓いた歴史文化に触れる！

明治初期。仙台白石藩から移住してきた武士たちによって拓かれた歴史的な地域です。
上手稲神社、時習館記念碑、手稲記念館などで、過去に想いを馳せるのも、一興！

人口は減ってきているけど…

子ども、子育て世帯が増えてきた！

「暮らしやすい」子育てにはもってこいのまち。
子ども達のはしゃいだ声が聞こえてきそうです。

夏といえばお祭り！

8月に宮の沢ふれあい公園で開催されるコンサウンふれあいフェスタには、4,000人以上の人が訪れており、多世代がふれあい、楽しむことのできるお祭りです。



海外からも注目のスポット！

宮の沢は、住民も観光客も楽しめる

白い恋人パークには国内外からたくさんのお客さんが来ています。せっかくなので、ほかのおススメも教えちゃいましょう。

おいしい宮の沢が待っています

意外と!? グルメスポットも充実！

ほんとは誰にも教えたくないイタリアン、隠れ家的パン屋、絶品スイーツ…etc.
どれもこれも、百聞は一口にしかず！

地域活動も一生懸命

住みやすい、暮らしやすいまち！

道もきれい、花も手入れがされている。暮らしやすいまちって、これですね。

◆自然豊かなみどり、行き交う人たち

自慢できる地域資源はまだまだある！

宮丘公園からの眺め、あの人の素敵な笑顔...
お宝をみんなで掘り起こしましょう。

まちづくりに生かす ポイント

地域資源の活用とPRの必要性

集う・交流する・滞留する場所の必要性

地域への愛着の醸成、担い手づくりの必要性



こんな時代がやってくる！？

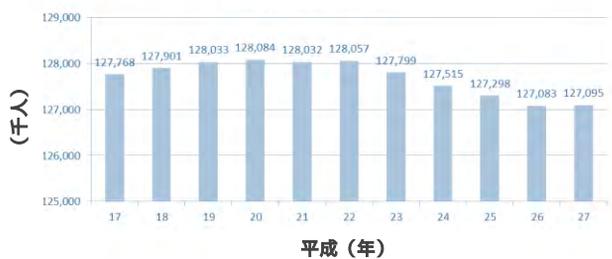
人口減少と少子高齢化が進んでいく

もしかすると、今まで以上に人と人がつながり、支えあうことができるかも

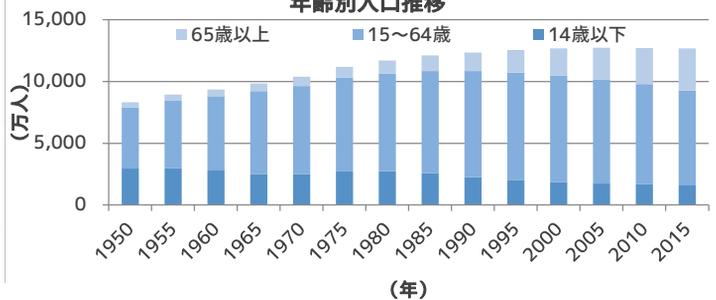
現在、日本の人口は平成22年を境に年々減り続けています。また、年齢別で見れば65歳以上が増え、14歳以下が減り続けています。少子高齢化で人口が減っていくことによって、暮らしの質が変わるなどの懸念もあります。

ですが、コミュニティを生かした身近な見守り、今までは関わる機会がなかった外国人観光客などとの出会い、訪れた方へのおもてなし、新しい魅力を引き寄せるなど、これまでにはなかった新しいまちづくりができるチャンスなのかもしれません。

日本の人口推移



年齢別人口推移



出典：総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）：出生中位・死亡中位推計」（各年10月1日現在人口）、厚生労働省「人口動態統計」

Hello! Miyanosawa! 海外からのお客さんが増える

もしかすると、新たな交流や宮の沢を楽しんでもらうチャンスかも

近々のデータでは、2017年6月の訪日外国人数は、前年同月比18.2%増の234万6500人。昨年6月の198万6000人を36万人以上うわまわり、6月として過去最高を記録しています。

さらに、国では新千歳空港を含む北海道内7空港の民営化やJR快速エアポートの輸送力強化が検討されています。この動きは訪日外国人の増加を予測したもので、国ではインバウンド政策を推進しています。



出典：日本政府観光局

あらゆるモノ・コトを“シェア（共有）”する暮らしになる

もしかすると、もっと助けあえる、もっと楽しいことを分かちあい、広げられるかも

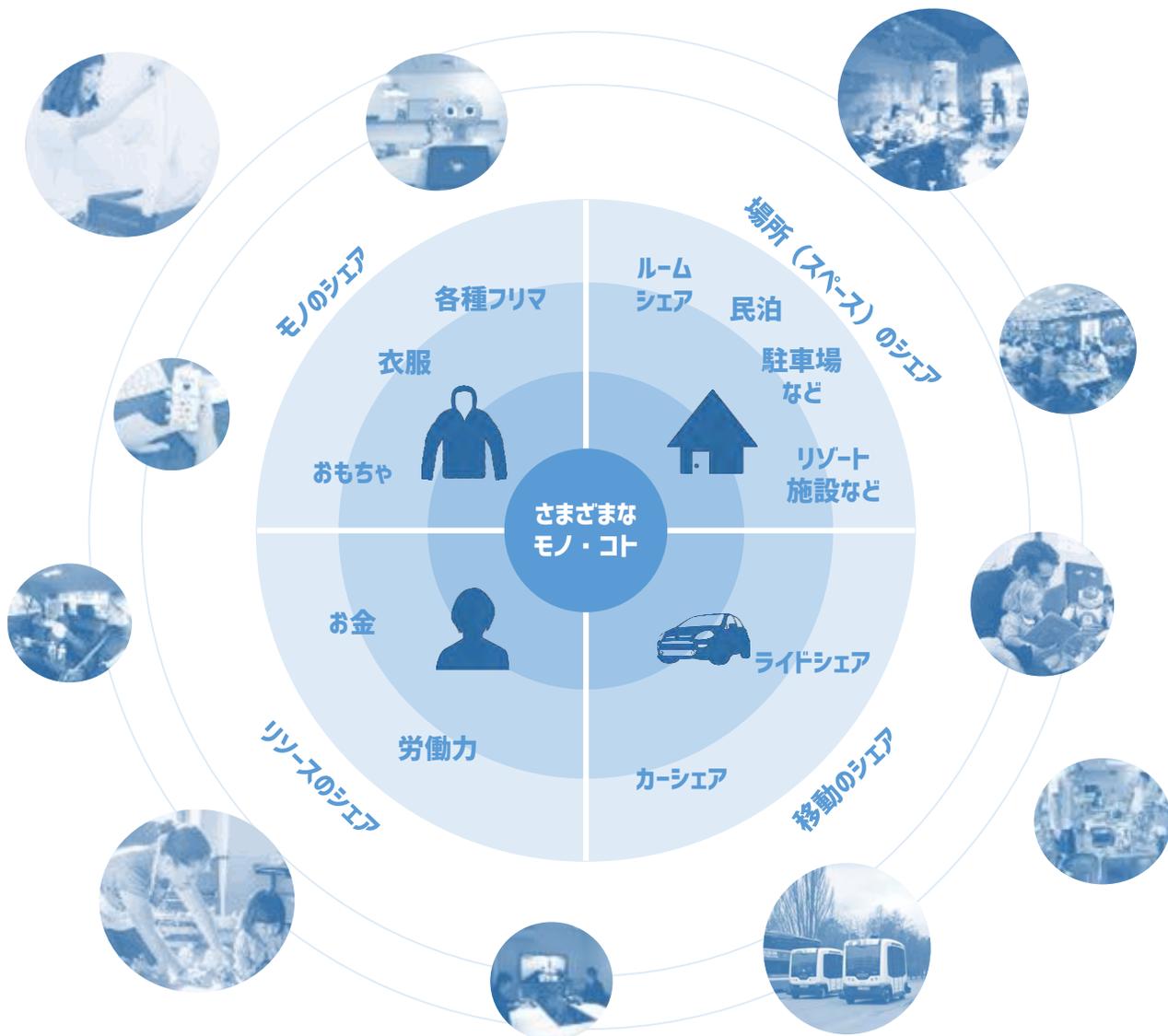
現在、世界的に注目されているAIやロボットなどの機械産業が発達し、その核としてIoT：Internet of Things（モノのインターネット）という仕組みが生まれています。従来は主にパソコンやプリンタ等のIT関連機器が接続されていたインターネットに、それ以外の様々な“モノ”を接続することを意味します。つまり、様々な“モノ”の情報をインターネットを介し色々な場所で活用できるようにする仕組みです。

また、今日の札幌でもポロクル※1、モバイク※2などの“シェアサイクル”からみる、シェアする社会が来ています。

シェアリングエコノミーという、カーシェアリングやシェアハウスなど、インターネットを介し、使われていない資源の有効活用や、人と人とのつながりを重要視するなどの取り組みが増えています。

※1ポロクルとは、“サイクルシェア”と呼ばれる新しいタイプのレンタサイクルシステム。札幌の街中に置かれたポート（専用駐輪場）からポートへ自由に自転車の貸出・返却ができる都市型コミュニティサイクルのこと。

※2モバイクとは、最新の技術とIoTを融合させた、移動を快適にする中国発の自転車シェアリングサービス。

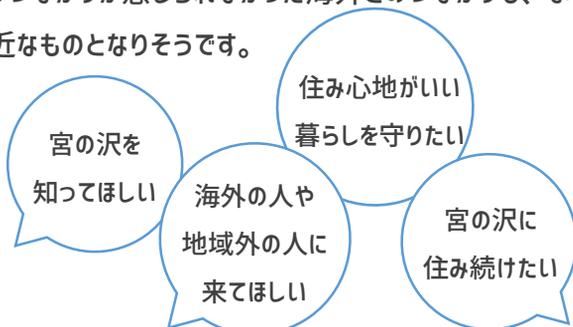


いま × 社会的動き → まちづくりのヒント

宮の沢のまちづくりは ハレとケの賑わいを

現在を見てみると、宮の沢にはたくさんの魅力があることがあらためて知ることができました。それだけでなく、まだまだ“自慢のお宝”が眠っている期待もわいてきました。

みらいを見ると、人口が減るなど一見後ろ向きな話題もありますが、それを逆手にとって新しい価値観をつくっていくことができそうな予感がします。さらに、今まではあまりつながりが感じられなかった海外とのつながりも、より身近なものとなりそうです。



現在とみらいの状況、そして地域のみなさんの想いも頼りに、特別な日の賑わい（ハレ）と日常の賑わい（ケ）があいまったまちの姿が、宮の沢のまちづくりのヒントになりそうです。

それでは、まちづくりに求められる視点として、ハレ（観光）とケ（日常）に分けて考えていきましょう！

まちづくりの課題

地域資源の活用とPRの必要性

地域資源を掘り起こし、活用や発信・PRすることが必要である

集う・交流する・滞留する場所の必要性

飲食店や休憩・交流スペースが少ないため、気軽に立ち寄り、憩うことができる場を作り、地域の人や観光客が滞留できるようにすることが必要である

地域への愛着の醸成、担い手づくりの必要性

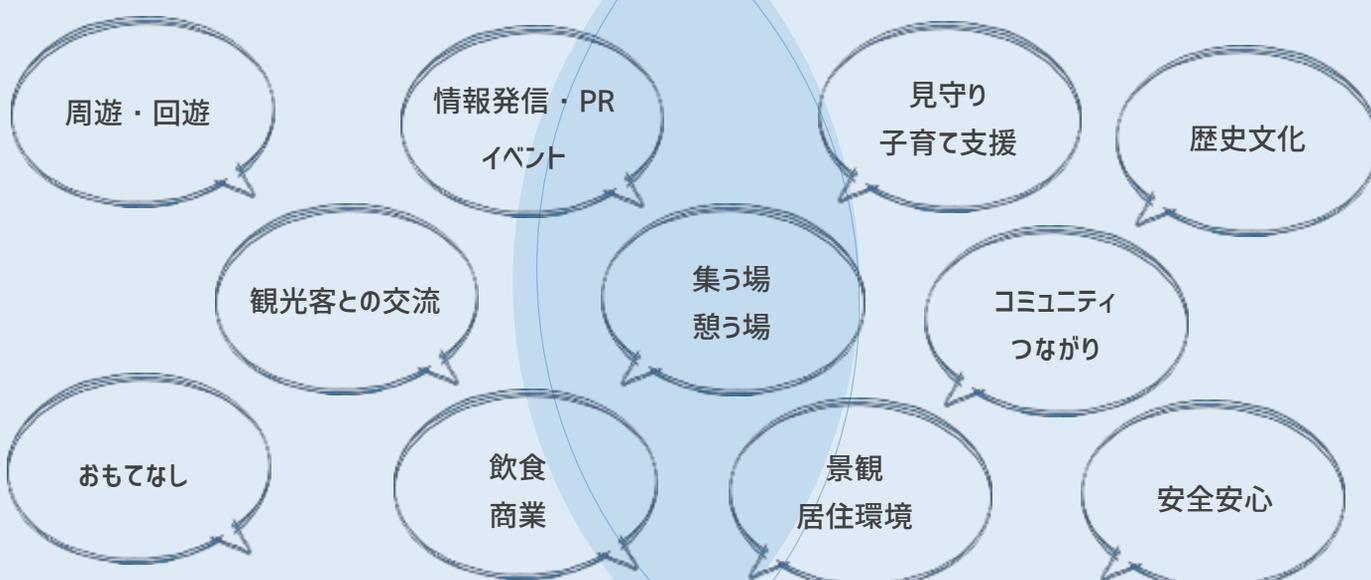
地域の子ども達や若い世代との交流、地域への関心・愛着をより一層高める必要がある



まちづくりに求められる視点

観光の視点

暮らしの視点



観光・暮らしの視点を持った宮の沢の賑わいを生み出す

ハレとケの賑わいづくり

地域資源の掘り起こしと活用

集う・交流・滞留機能の向上

情報案内機能の向上

まちづくりを動かす仕組みの構築



Our Futuers → → Direction → →

宮の沢地区の現在・みらいなども踏まえて『こんなまちに住みたい！』について、たくさんの意見を出し合い、地域住民も交えてみんなで考えた結果、目指す将来像を以下のように掲げます。

目指す将来像 — Our Futuers —

札幌市西区の最西端に位置する宮の沢には、白い恋人パーク、ちえりあのほか、歴史文化など、国内外から多くの人を惹きつける魅力がたくさんあります。

こうした地域の魅力をめいっぱい活用して、たくさんの人が宮の沢に集まり、ふれあい、めぐり、そして、とどまり満喫できるまちにしていきます。訪れる人も住む人もみんなが楽しく、心豊かに過ごせるよう「人とまちがつながり賑わいあふれるまち」を目指します。

憩う
集まる

ふれあう

人とまちがつながり 賑わいあふれるまち

～人・モノ・情報が行き交う 交流拠点・宮の沢～

めぐる

佇む
留まる

Action!! — 将来像・基本目標・アクションプログラム —

宮の沢地区の将来像「人とまちがつながる賑わいあふれるまち」を実現させるため、以下の3つの基本目標を掲げます。この基本目標に沿ったアクションプログラムに取り組み、ハレとケの賑わいを生むまちづくりを進めます。

基本目標 — Direction —

1 拠点機能を高める

地下鉄駅、ちえりあ、白い恋人パークなど多くの人々が集まる地域の特性を生かし、さらなる集客と滞留の誘導も含めた拠点機能を高めるまちづくりを進めます。

2 おもてなし交流でつながりを築く

まちを訪れる人々と地域の人々が交流し、宮の沢の新たな魅力を創り広めるまちづくりを進めます。

3 暮らし・コミュニティを育む

暮らしの環境、見守り、身近なコミュニティの維持・向上させるまちづくりを進めます。

まちづくりのコーディネート

アクションプログラム — Action —

- 1 屋外広場を活用したマルシェなどの実施
- 2 まちブラマップ・ルートづくり
- 3 華やかさを生むコンサドレフラッグ・ハンギングバスケットなどの設置
- 4 インフォメーションセンターなど情報案内機能のバージョンアップ
- 5 レンタサイクルステーションの設置
- 6 飲食機能の誘導

P.14

- 1 宮の沢のイベントカレンダーの作成
- 2 冬の魅力づくりと発信
- 3 ちえりあを核とした地域学講座や体験メニューづくり
- 4 ちえりあと連携した観光ボランティアガイドの育成
- 5 MIYANOSAWAおもてなし交流体験
- 6 空き部屋などを活用した宿泊の促進

P.16

- 1 住み心地の良い居住環境を守り・育てるプログラム
- 2 地域活動と連携した見守りや身近なコミュニティづくり
- 3 移動や生活を支援するライドシェアリングの仕組みづくり
- 4 周遊・回遊性を高めるサイクルシェアリングの仕組みづくり
- 5 空き家・空き店舗等の改修、リノベーション

P.18

1

拠点機能を高める

アクションの内容

① 屋外広場を活用したマルシェなどの実施

ちえりあ屋外広場などを活用して、朝市やマルシェを仕掛け、地域の食の発信と集客による賑わいを創ります。また、宮の沢に訪れる観光客や宮の沢に暮らす人々が休んだり、留まることができるオープンカフェの実施などにも取り組みます。

② まちブラマップ・ルートづくり

宮の沢に暮らす若い世代、企業のほか、来訪者などとも協力しながら、エリアマップをつくります。また、多言語対応や各種媒体との連動・連携、「まちブラ（まち歩き）」などへの活用も踏まえて作成します。

③ 華やかさを生むコンサドレフラッグ・ハンギングバスケットなどの設置

西のコンサ通りなど、地域の象徴となる場所・みちなどで、コンサドレフラッグの掲示や季節の花を飾るハンギングバスケットを設置し、ハレとケのある華やぎを創出します。

④ インフォメーションセンターなど情報案内機能のバージョンアップ

海外からの観光客の需要が高い、Wi-Fiの整備に取り組みます。また、地下鉄駅構内にある案内サインの他施設への拡充、宮の沢の現地情報や観光情報などを案内するインフォメーションセンターの設置を求めるなど、情報案内機能を強化・充実させます。さらに、SNSの活用など、情報のプラットフォーム形成についても検討しながら取り組みます。

⑤ レンタサイクルステーションの設置

来訪者の周遊・回遊性を高めるため、ちえりあや地下鉄宮の沢駅周辺などにレンタサイクルステーションを設置するよう求めていきます。

⑥ 飲食機能の誘導

たくさんの人々が集うことができ、滞留できるよう飲食機能の誘導に取り組みます。必要に応じて、都市計画の手法も活用します。

アクションプログラムの方向性：

屋外のオープンスペースを活用した賑わい創出、地域資源を活用した周遊の促進、飲食機能の誘導やインフォメーション機能の充実などのアクションを展開していきます。



目安となるスケジュール

短期

中長期



短期	中長期

2

おもてなし交流でつながりを築く

アクションの内容

① 宮の沢のイベントカレンダーの作成

宮の沢で行なわれているさまざまなお祭りやイベント、福祉・地域活動などをひと目で見ることができるイベントカレンダーを作成します。

② 冬の魅力づくりと発信

雪に触れることの少ない地域からの観光客を主な対象として、宮の沢をより楽しんでもらうため、スノーシュー体験、雪だるま・アイスキャンデルづくりなどの冬の魅力づくりに取り組みます。

③ ちえりあを核とした地域学講座や体験メニューづくり

さまざまな生涯学習活動を支援するちえりあは、宮の沢の学びの拠点であるとともに、地域のまちづくりや魅力を創出する核でもあります。ちえりあの活動や機能と、周辺の企業や事業者が持つサービスを組み合わせて、宮の沢ならではの地域学講座や体験メニューづくりに取り組みます。

④ ちえりあと連携した観光ボランティアガイドの育成

ちえりあで行なわれている様々な語学講座や着付け講座のほか、インフォメーションセンター（P.14）の機能強化とも連動しながら、国内外から訪れる観光客に対して宮の沢を案内できる観光ボランティアの育成に取り組んでいきます。また、子ども観光ガイドの育成にも取り組みます。

⑤ MIYANOSAWAおもてなし交流の推進

国内外から訪れる観光客は、そこでしか味わうことができない地元の人との交流や体験を望むニーズがあります。宮の沢に暮らす人が伝えることのできる日本文化や宮の沢の歴史文化などを生かして、観光客との交流体験に取り組みます。また、観光ボランティアの育成過程とも連動しながら、実践を通じた対応機会をつくり増やしていきます。

⑥ 空き部屋などを活用した民泊の促進

国内外から訪れる観光客などの滞留時間を延ばすため、今後、増加が予想される空き家・空き店舗などを有効に活用しながら民泊に取り組んでいきます。

アクションプログラムの方向性：

国内外からの来訪者と居住者との交流体験、こうした機会に歴史文化や地域資源を伝え残し、広めていくことができる人材育成のほか、多世代交流の場や機会を創っていくなどのアクションを展開していきます。



目安となるスケジュール

短期

中長期



3

暮らし・コミュニティを育む

アクションの内容

① 住み心地の良い居住環境を守り・育てるプログラム

宮の沢は「住みやすく、環境もいい」との利点が、地域住民から多く聞かれます。この居住環境の良さをしっかりと守り、移住・定住やまちの価値（ブランド化）を高めることにつながるよう景観ルールづくりに取り組みます。

また、地域の象徴となる場所・みち、飲食店の店先やアプローチ、家庭の庭などは、花・みどりを植えて、暮らす人も訪れる人も潤いと彩りを感じられるようにします。

② 地域活動と連携した見守りや身近なコミュニティづくり

宮の沢では、町内会をはじめとする地域の団体が主催する催しや活動がたくさん行われています。こうした地域活動と連動するような環境をつくり、活動や交流を通じた顔の見えるコミュニティ形成に取り組みます。

さらに、コミュニティの力を活かして、安全安心な暮らしの支援を必要とする人たちに対する見守り支援に取り組みます。

③ 移動や生活を支援するライドシェアリングの仕組みづくり

今後、高齢化が進んでいくと、自力で買物や遠出することが困難な人が増える可能性があります。地域のつながりを生かして、移動をよりスムーズに効率化できるライドシェアリングの仕組みづくりを検討していきます。

④ 周遊・回遊性を高めるサイクルシェアリングの仕組みづくり

レンタルサイクルステーションの設置（P.14）と連動して、普段のちょっとした買物や移動を手助けするサイクルシェアリングの仕組みづくりを検討していきます。サイクルシェアリングは地域住民の生活だけでなく、観光客に宮の沢を巡ってもらうなど、観光面でも様々な活用ができます。

⑤ 空き家・空き店舗等の改修・リノベーション

空き部屋などを活用した民泊の促進（P.16）なども見据えて、空き家・空き店舗等はまちづくりに有効な資源として、新しい機能を追加するなど改修・リノベーションに取り組んでいきます。リノベーションなどを行なう際は、所有者との協議のほか、地域の中で必要とされる機能などを検討して取り組みます。

アクションプログラムの方向性：

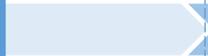
緑・景観を保全し、住みやすい環境の維持とブランド化、子ども、高齢者の見守り支援、顔の見えるコミュニティの形成などのアクションを展開していきます。



目安となるスケジュール

短期

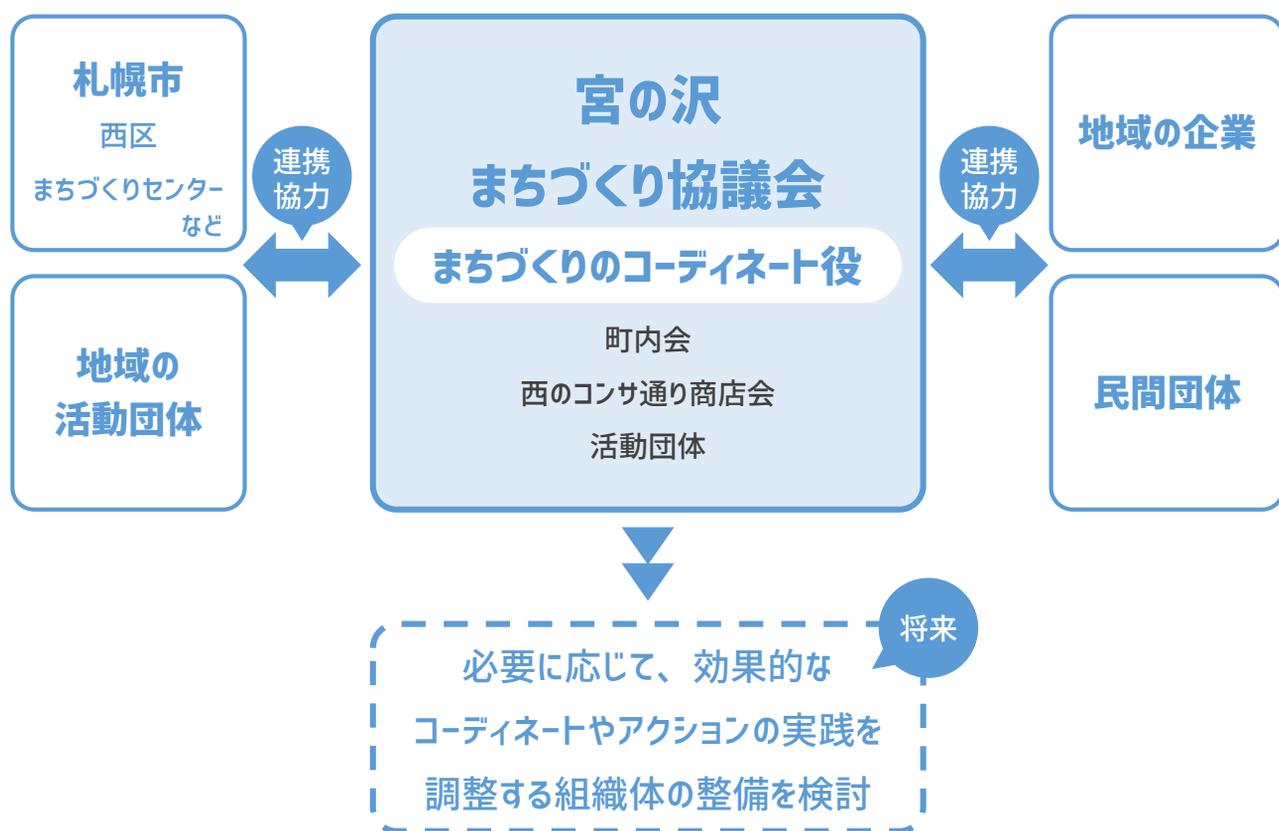
中長期



まちづくりの進め方と仕組み

宮の沢まちづくり計画をつくるにあたって、まちづくり協議会や賑わいづくりのワークショップを開き、たくさんの意見交換を行いました。そのなかで「継続的に実践していくことができる仕組みが必要」、「資金も集めながらアクションや調整を行う組織体も必要」など、まちづくりをコーディネートしていくことの大切さがあげられました。

宮の沢まちづくり協議会が中心となりながら、さまざまなアクションをコーディネートしていくことができるように、まちづくりの進め方と仕組みの考え方を示します。



宮の沢まちづくり計画ができるまで

完成までの
ヒストリー

第1回宮の沢まちづくり協議会 平成29年2月22日 札幌市生涯学習総合センター

- 宮の沢まちづくり協議会規約（案）及び役員（案）について、承認をいただいた後、地域の現状及び課題等について話し合いを行いました。

第2回宮の沢まちづくり協議会 平成29年4月28日 札幌市生涯学習総合センター

- 前回に引き続き、地域の現状及び課題等について話し合いを行いました。

第3回宮の沢まちづくり協議会 平成29年6月7日 札幌市生涯学習総合センター

- 宮の沢の将来イメージ、将来イメージに向かってどのようなモノ・コトがあったらよいかを、2グループに分かれて話し合いを行いました。

第4回宮の沢まちづくり協議会 平成29年7月10日 西町会館

- 地下鉄宮の沢駅周辺をまち歩きをした後、賑わいづくりに向け、2グループに分けて話し合いを行いました。

宮の沢まちづくりワークショップ 平成29年9月21日 札幌市生涯学習総合センター

- 「10年後の宮の沢のイメージ」「将来のイメージに向かって取り組んでいくこと、必要なことのアイデア」のテーマについて、5グループに分かれて話し合いました。

第5回宮の沢まちづくり協議会 平成29年10月12日 札幌市生涯学習総合センター

- これまでの話し合いの内容やワークショップで出されたアイデアなどを基に（仮称）宮の沢まちづくり計画の骨子（案）について、検討しました。

第6回宮の沢まちづくり協議会 平成29年12月19日 札幌市生涯学習総合センター

- （仮称）宮の沢まちづくり計画（案）の確認と、来年度以降の進め方について話し合いを行ないました。

第7回宮の沢まちづくり協議会 平成30年2月27日 札幌市生涯学習総合センター

- （仮称）宮の沢まちづくり計画（修正案）の確認を行い、平成30年度の進め方とスケジュールについて話し合いを行ないました。

宮の沢まちづくり計画 策定

宮の沢まちづくり協議会構成団体

団体名

西のコンサ通り商店会

西町連合町内会

石屋製菓株式会社・石屋商事株式会社

株式会社コンサドーレ

札幌市生涯学習センター

公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

北海道大野記念病院

宮の沢まちづくり協議会

平成30年2月